

高等学校地理歴史（歴史）

解答はすべて解答用紙に書きなさい。

[1] あるイギリスの歴史学・政治学者は、著書『歴史とは何か』（清水幾太郎訳）の中で、「歴史は、現在と過去との対話である」という歴史哲学を繰り返して述べている。このことについて、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) この本の著者は誰か、その名前を書け。
- (2) 「歴史は、現在と過去との対話である」について、簡潔に説明せよ。

[2] 次の文を読んで、下の(1)～(10)の問いに答えなさい。

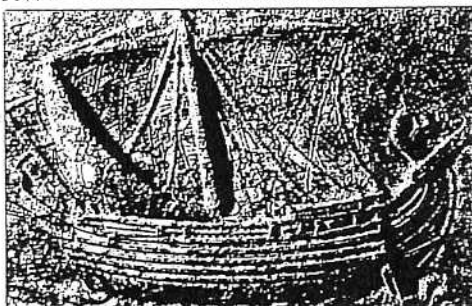
①古代オリエント世界に生まれた文明は周辺地域に拡大し、次第に西アジア・地中海世界をおおった。やがて、この世界は②ササン朝ペルシアと③ローマ帝国によって分割されたが、7世紀にはアラビア半島で④イスラーム勢力が急速に拡大した。西方では西ローマ帝国が5世紀に滅亡し、その領域にはゲルマン人の勢力が分立していたが、8世紀になると、その中のフランク王国が強大化した。こうして、西アジア・地中海世界はイスラーム世界、東ローマ（ビザンツ）世界、西ヨーロッパ世界の3つに分かれて独自の発展をとげていくことになった。

これら3つの世界は、9～10世紀を境目として転換期を迎える。イスラーム世界はシーア派とスンナ派の対立が強まるなか、各地域で⑤イスラーム王朝の分立が進んだ。東ローマ世界では、ビザンツ帝国が9世紀後半から勢力を回復し、その首都はヨーロッパ世界最大の商業都市として栄えた。また、ビザンツ帝国では、ギリシア古典文化と⑥ギリシア正教の融合した特徴的な文化が発展した。一方、西ヨーロッパ世界は、9世紀頃からノルマン人、マジヤール人、イスラーム勢力などの侵入に見舞われ、このような民族移動などによる長い混乱期を通じて、⑦西ヨーロッパの経済や社会は変容していった。

これらの世界で、ユーラシアやアフリカに勢力を拡大したのはイスラーム教徒であった。そのネットワークは、陸路、海路で宋代の中国ともつながっていた。彼らは公正な取引など商人の倫理を重んじ、商業活動を拡大させていったため、広い地域に⑧都市を中心とする交易ネットワークが構築された。13世紀になると、このネットワークは「モンゴルの平和」を背景にして大いに発達するが、モンゴル帝国の力は自民族の軍事力にイスラーム勢力の商業活動を合わせたものといえる。モンゴル帝国滅亡後も、各地域で大帝国が成立した。中央アジアではティムール帝国が栄え、中国では明が東アジア交易圏の極となった。一方、地中海世界では⑨オスマン帝国が覇権を握り、イランでは⑩サファヴィー朝が栄え、インドではムガル帝国が独自の交易圏を保持して繁栄した。

(1) 下線部分①で活躍した諸民族の一つであるフェニキア人について、次の資料1、2をふまえて説明せよ。

資料1 フェニキア人の船(石棺の浮き彫り)



資料2 文字の変遷

エジプト文字の記号の意味	エジプト文字	フェニキア文字	ギリシア文字	ローマ字
牡牛の頭	𐀀	Α(a) Akeph	ΑA(a) Alpha	A
家	𐀁	Β(b) Beth	ΒB(b) Beta	B
かど	𐀂	Γ(γ) Gimel	ΓC(γ) Gamma	C/C
折戸	𐀃	Δ(d) Dalerh	ΔD(d) Delta	D

- (2) 下線部分②の王朝で国教とされた宗教は、のちのキリスト教やイスラームにも影響を与えたが、その宗教の名称と教義の特徴について、説明せよ。
- (3) 下線部分③の時代のできごとである次のア～エを、年代の古いものから順に並べ、その符号を書け。
ア 全自由民へのローマ市民権の付与 イ ダキアの属州化 ウ キリスト教の公認
エ トイトブルクの戦い
- (4) 下線部分④のすべての信者が帰属するとされる共同体は何と呼ばれるか、その呼称を書け。
- (5) 下線部分⑤について、トルコ人がイスラーム世界で台頭してきた経緯について、説明せよ。
- (6) 下線部分⑥について、9世紀に布教のために考案された文字は何か、書け。
- (7) 下線部分⑦について、どのように変容したか、簡潔に説明せよ。
- (8) 下線部分⑧に関して、次のア、イの問いに答えよ。
ア イスラーム社会の都市の特徴について、「ワクフ」という語句を用いて説明せよ。
イ 交易ネットワークの拡大にスーフィズム教団は大きな役割を果たしたが、その理由について、説明せよ。
- (9) 下線部分⑨について、スレイマン1世の異教徒に対する統治政策について、次の語句を用いて説明せよ。
カビチュレーション ミッレト
- (10) 下線部分⑩で国教とされたシーア派の一派の名称を書け。